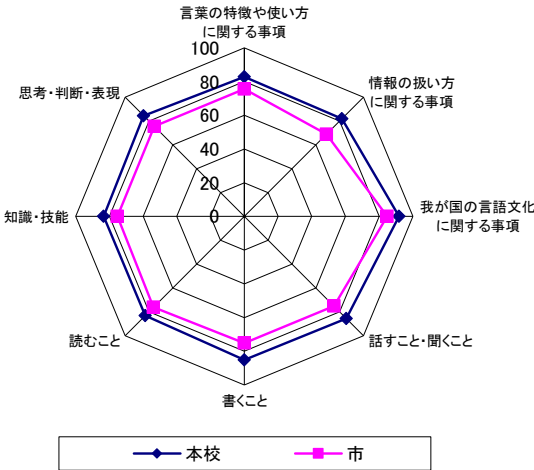


宇都宮市立河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.8	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	82.0	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	91.8	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	85.6	75.3	69.4
	書くこと	85.1	75.2	65.1
	読むこと	83.2	76.2	68.8
観点別	知識・技能	83.4	75.3	66.7
	思考・判断・表現	84.5	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

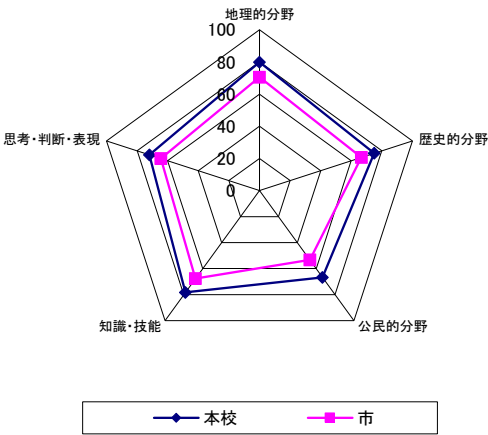
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市平均を7.2ポイント上回っていた。特に文法や語句に関しては、9割を超える生徒が理解しているという結果から、言語に関する知識が身に付いていると考えられる。 ●敬語については、市の平均を超えたものの正答率は約8割と他の設問をやや下回る結果となった。また、漢字の読み書きに関しては、無解答率が平均5.8%であり、苦手な生徒がやや多いようである。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の読み書きに関しては、社会に必要なスキルであり、教科を超えて身に付けさせていく必要がある。また、ICTを取り入れた授業展開が多くなっていく中で、「書く」とこととの両立を図っていかねばならない。 特に敬語については、小学校時から中学校にかけて学んでいるが、まだ身に付いていないようである。そのため、社会で生かしていけるよう、単元だけの学習にとどまらず、日頃より意識させ、身に付けさせていく。
情報の扱い方に関する事項	○市平均を13.0ポイント上回っていた。約8割の生徒が情報と情報の関係について理解し、論理を展開することができている。記述においても、短答式問題より正答率は若干下回るものの78.4%の正答率であった。 ●市平均より大幅に上回っているものの、必要な情報を選択し活用していくことが苦手な生徒もいると考えられる。	ICTの活用が取り入れられた授業展開が多くなっていく中、情報の扱い方に関する問題は正答率が高く、ある程度の知識は定着しているように思われる。今後は、更に他教科とも関連付けていくことにより、必要な情報を取捨選択していく能力を培っていききたい。
我が国の言語文化に関する事項	○正答率は、市平均を7.1ポイント上回り、約9割の生徒が現代語訳を参考に古典を読むことができています。 ●無解答の生徒はいないものの、古典分野に苦手な意識をもつ生徒が、一定数いるようである。	全体的には、言語文化に関する知識は身に付いている。現代語訳を参考に、本文と結び付けて読むことができていけると言える。その一方で、古文への苦手意識が強い生徒に対して、ICTを活用しながら、単語の意味や読み方などを身に付けさせる授業展開を図っていく必要がある。
話すこと・聞くこと	○市平均を10.3ポイント上回る結果となった。特に話の展開を予測して聞くことができており、95.9%の正答率であった。また、自分の考えを明確にし、論理の展開を考えながら話し言葉を用いて記述することができている。 ●発表内容の大まかな部分は把握できているものの、詳細な内容に関しては聞き取れなかった生徒もいたと考えられる。	定期的に関き取りテストを行うことで、重要と考えられる部分を意識することができるようになったと考えられる。今後も聞き取りテストを継続していくことだけでなく、日頃から他者の考えに触れ、要点をまとめていくような意識付けをしていきたい。また、他者と意見を共有する時間も設け、価値観を更に広げさせていきたい。
書くこと	○示された条件に応じて記述することができる生徒は、8割を超え、市平均を大幅に上回っている。 ●自分の考えを明確に、分かりやすく記述することに対して、無解答の生徒が約3%ほどであった。このことから、選択肢から適切なものを選ぶことはできるが、記述に対して苦手意識が強い生徒もいるようである。	作文を書く上での基本的事項については、身に付けられている。ただし、条件が重なっていくほど、正答率は低くなる傾向にある。そのため、説得力のある文章を構成させていくことが必要である。今後は、教師側によるサポートはもちろんのこと、生徒同士で互いの文章を指摘することで、良さの共有を図っていく授業を展開していきたい。
読むこと	○市平均を7.0ポイント上回り、どの設問においても8割を超える生徒が理解することができていた。特に文章中から書き抜く問いに対しては、85.6%の正答率であった。 ●文章中からの書き抜く問いの無解答率は6.2%で、他より高い傾向にある。	文章中からの抜き出しになると、本文を再度読むことに対して、苦手意識をもってしまふ生徒が多い。今後は、文章構成や表現などの理解を、より一層深めていく必要がある。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	79.9	70.5	62.1
	歴史的分野	75.0	66.6	57.8
	公民的分野	66.8	53.3	45.2
観点別	知識・技能	78.2	67.6	59.2
	思考・判断・表現	72.0	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

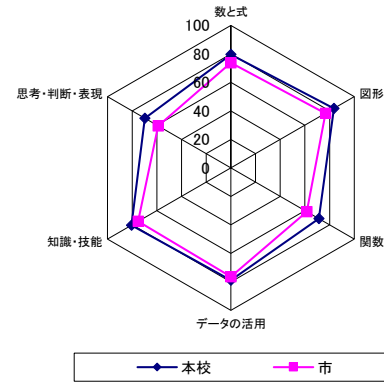
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○すべての問題において、市正答率を上回っており、領域の平均正答率は市平均を9.4ポイント上回った。 特に、3(2)地震による被害に対する問題の正答率は96.9%、4(1)九州地方とアジアの結びつきに関する資料読み取りは94.8%と高い正答率であった。また、4(2)中国・四国地方の地域おこしに関する問題では、市平均よりも正答率が22.7ポイント上回った。 ●大問2「世界各地の人々の生活と環境」の問題に関して、市平均をすべて上回っているものの、その差は他の大問より小さかった。	地方が抱える課題とその解決策について、各地方ごとにレポートを作成し考察を各班で行った結果が、4(2)の高い正答率に結びついたのではないかと考える。今後も、課題を主体的に追究する活動をととして、多面的・多角的に考察したり、理解をより深めたりさせる。
歴史的分野	○すべての問題において、市正答率を上回っており、領域の平均正答率は市平均を8.4ポイント上回った。 特に、6(1)資料をもとに建武の新政に対する人々の不満についての問題の正答率は92.8%だった。 また、7(3)蘭学は13.8ポイント、6(2)承久の乱についての理解は11.4ポイント、8(4)資料をもとに大日本帝国憲法の制定についての考察は11.7ポイント市の平均正答率を上回った。	クラゲチャートやXチャート、ランキング等を活用しながら、歴史的事象について整理し、意見を交換する活動をととして、時代を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、自分なりに表現できるようにさせる。
公民的分野	○すべての問題において、市正答率を上回っており、領域の平均正答率は市平均を13.5ポイント上回った。 特に、9(2)公共の福祉と解答する問題では、市平均よりも正答率が28.5ポイント上回っていた。 ●9(3)社会権の種類に関する問題では、市平均よりも正答率が1.9ポイント上回っていたものの、他の問題に比べて差が小さかった。	人権保障と共生社会の実現について関心をもち、意欲的に追究して、問いを見だし、自身の関わり方を表明する活動をととして、深く考えさせる。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	79.5	73.8	71.4
	図形	83.5	76.7	67.9
	関数	71.4	61.6	52.2
	データの活用	78.9	76.4	65.4
観点別	知識・技能	80.5	75.2	69.9
	思考・判断・表現	69.7	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

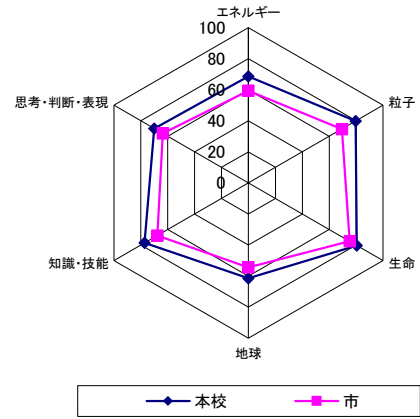
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は79.5%で、市の平均正答率より5.7ポイント高い。14問中12問の正答率が市の平均を上回っている。 ○基礎的な知識・技能に関する「根号をふくむ式の減法の問題」の本校正答率は72.2%で、市の平均を10ポイント以上上回っている。分母の有理化を必要とする減法であることから、知識・技能の定着が十分に図られていることが分かる。 ○「連立方程式を用いる文章問題の解の吟味」において、作成された問題の間違いを説明する記述式問題の正答率は84.5%で、市の平均を17ポイントほど上回っている。思考力・判断力・表現力がおおむね良好である生徒の割合が高いことが分かる。 ●有意差はないものの「乗法公式を使った式の展開」の正答率が市の平均をやや下回っている。また、市の平均と同程度にとどまっている他の2問についても、乗法の問題である。	乗法公式を利用するやや複雑な計算、平方根の考えを使った二次方程式の解法、方程式の活用である立式の問題における正答率は、市の平均を上回っているものの50～60%程度と十分ではない。やや複雑な基本問題にも対応できるよう、十分に反復練習を行うとともに、1つの問題に対する複数の解法についてそれぞれの良さを味わえるような授業、学習方法の工夫に努め、多様な問題に適切に対応できる能力を身に付けさせる。 85%の生徒が記述式問題に対応できている現状から更なる高みを目指し、数学用語を用いて論理的に説明するなどの活動を充実させる。 乗法を用いる各種問題の正答率が市の平均と同程度にとどまっていることは、市の平均が85%程度から95%以上という高い水準にあることが理由として考えられるが、100%に近づけるために各学年において知識・技能の確実な定着を目指した授業の工夫改善に取り組む。
図形	平均正答率は83.5%で、市の平均正答率より6.8ポイント高い。6問中5問の正答率が市の平均を上回っている。 ○「角の二等分線の作図」の正答率は81.4%で、市の平均を10ポイント以上上回っている。基本的な知識・技能の定着が比較的図られている。 ●「平行線と同位角・錯角の関係と二等辺三角形の性質を用いて、角の大きさを求める問題」の正答率は市の平均を10ポイント近く上回っているものの、74.2%にとどまり、他の5問が80%台であることに比べると低い。補助線を引くと容易に解けるが、やや複雑な図のため基本的な補助線の引き方に考えが至りにくかったと考えられる。	角の二等分線と線分の垂直二等分線、および垂線の作図については、その方法が容易であるため生徒全員の技能習得が十分に期待できる学習内容である。今回の問題は単純な図における基本的な作図であるため、正答できなかった2割弱の生徒は、学習した1年次に身に付けていた技能が完全な定着までは至っていなかったと予想される。2、3年の図形の授業において基本的な作図の復習を取り入れるなど、意図的に復習の機会を与えるようにする。 基礎的な知識・技能で解決できる問題であっても、複数の条件が入った複雑な図においては解決に至りにくい。複雑な図の中から、その時々に必要な情報のみに注目する目を養う必要がある。解決に至るまでの見方や考え方を丁寧に確認できる学習を授業に取り入れる工夫をする。
関数	平均正答率は71.4%で、市の平均正答率より9.8ポイント高い。8問すべてにおいて正答率が市の平均を上回っている。 ○活用に関する問題は、3問中2問において市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●「比例・1次関数」に関する問題の平均正答率が70～80%台なのにに対し「 x の2乗に比例する関数」に関する問題は基礎が60%台、活用が40%台と低い。3年次の学習内容であることから問題演習量が相対的に少ないことも要因の一つと考えられる。 ●「グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題」は、市の平均が27.5%のところ本校は42.3%と大きく上回っているものの、正答が半数に満たない結果となった。	関数領域については、全国的な傾向として他の領域に比べ学習内容の定着度が低い。数学科における長年の課題であるが、他領域と同等の定着度まで引き上げるように指導方法の工夫改善を継続していく。 「式」「表」「グラフ」それぞれがもつ有用性を十分に理解させる授業を展開し、効率よく課題解決ができる力を身に付けさせる。 「数と式」の領域で学んだことを活用する場面が多いことから、「数と式」の学習の際に単なる機械的な作業としての技能習得にとどめることなく、式のもつ有用性にも焦点を当てた学習を展開する。また、「図形」領域の学習内容と関連付けた難易度の高い活用問題に対応できるように、図形の感覚的理解について適宜授業で触れていく。
データの活用	平均正答率は78.9%で、市の平均正答率より2.5ポイント高い。4問中3問の正答率が市の平均を上回っている。 ○確率の問題についてはすべて平均正答率80%台であり、「5人の中から、2人選ぶとき、Aが選ばれる確率を求める問題」では市の平均を5.1ポイント上回った。 ●有意差はないものの「ヒストグラムの階級の度数に関する問題」の正答率が市の平均をやや下回っている。 ●「ヒストグラムの特徴を読み取り、説明すべきことがらについて数学的に説明する問題」の正答率は市の平均を4.6ポイント上回っているものの、61.9%にとどまり、他の3問が80%台であることに比べると低い。	論理的思考力を高める授業展開をすべての領域で意識していく。また、根拠を明らかにして説明する力の高まりを確認する機会を適宜設ける。 説明する力を高めるためには、基礎的な技能を十分に身に付けることが前提となる。この段階を満足できる状況にするため、反復学習や確認テスト等を行い、全員が「説明すること」に興味をもって取り組めるようにする。 度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図等それぞれがもつ有用性を十分に理解させ、データの分布の傾向を正しく読み取る力を身に付けさせる。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	68.6	59.3	62.1
	粒子	79.7	69.5	66.8
	生命	80.5	75.2	70.9
	地球	61.4	54.4	52.0
観点別	知識・技能	77.3	67.7	67.2
	思考・判断・表現	70.2	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

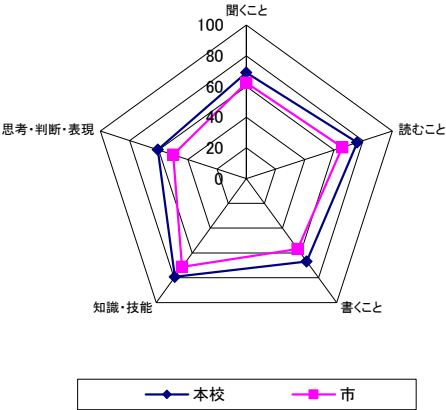
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○光の性質の乱反射に対する理解度は高く、正答率は81.6%で市の平均よりも11.0ポイント高かった。 ○電流と磁界の磁力線に対する理解度は市の平均よりも16.1ポイント高く、正答率51.0%だった。 ○物体の運動のテープから平均の速さを求める問題の正答率は、市の平均よりも13.2ポイント高い65.3%だった。 ●電流を流したコイルの周りの磁界の向きの問題の正答率は、市の平均より4.3ポイント高かったが、全国の前年より11.3ポイント低い43.9%だった。	電流を流したコイルの周りの磁界の向きを調べる実験について、班別実験を行い、向きの確認は個人で行わせ、各自作業用紙に記入させて、まず自分で考える力を身に付けさせたい。 班別活動では、タブレット端末などを使い、班員の中での話し合い活動を増やして考察の時間も多くなり、理解を深めさせたい。
粒子	○「身の回りの物質を見分ける」学習の鉄の見分け方の問題では、市の平均を3.7ポイント上回る正答率だった。 ○「物質の成り立ち」の酸化銀を加熱してできる物質の見分け方の問題では、89.8%と市の平均を24.0ポイント上回り、特に高い正答率であった。 ○「水溶液とイオン」の電離について調べさせる問題では、市の正答率より10.6ポイント高い68.4%だった。	電離について調べさせる問題については、実験を通して体験していることが、知識として更に定着するように、授業で振り返り、タブレット端末などを活用し、映像資料などで理解を深めるよう指導したい。酸化銀を加熱してできる物質の見分け方ではできるだけ生徒実験を行わせて、化学の不思議さの体験などを多くしていきたい。
生命	○植物の分類、動物のからだのつくりとはたらき、生物の成長とふえ方のほとんどについて市の平均を上回る正答率だった。 ●脈拍が多くなると息苦しくなり、心臓のはたらきが活発になることを分析する問題では、唯一市のポイントを下回り、1.8ポイント低かった。	植物や動物の重要な特徴を理解し、実験操作の意味や結果から考える力は身に付いてきたが、重要語句の理解は疎かになっているように感じる。デジタルドリルを繰り返し行い、授業中に口頭で何度も取り上げることで定着させたい。 また、今後も更に科学的なものの見方や考え方を発展させるために、映像資料などを活用し理解を深めさせたい。
地球	○気象の観測については、市の平均とほぼ同じ正答率だった。 ○火山については市の平均を11.2ポイント上回った。特に火山の形からマグマの特徴や噴火の様子を推測する問題の正答率は、市の平均を16.9ポイント上回る71.4%だった。 ●気圧についてポンプの水にたとえて記述する問題の正答率は、市の平均を3.5ポイント上回ったものの、全国の前年より12.9ポイント下回った。	気象の観測についてはできる範囲で行わせたい。また、天気図の内容なども発展的内容として扱い体験させたい。 気圧についてポンプの水にたとえて記述する問題については、身近なもので実験を行うなどしてから、考察を書かせることにより、思考力を高めさせたい。また、モデル実験を取り入れ、問題演習を繰り返したり、デジタルドリルに取り組ませたりして、理解が定着するよう指導していきたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.0	62.4	59.8
	読むこと	76.0	65.7	58.5
	書くこと	66.8	56.8	43.5
観点別	知識・技能	79.2	71.2	65.3
	思考・判断・表現	60.7	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○すべての問題において、市の正答率上回っており、平均正答率は市を6. 6ポイント上回った。 ○天候の説明についての英文を聞き、内容に合う絵を選ぶ問題の正答率は、市28. 2%、全国31. 8%であったが、市の正答率よりも11. 0ポイント上回っている。 ●聞くことの領域すべての問題において、市の平均正答率を上回っているが、英文を聞いて、自分の考えを英語で書く記述問題では、無解答が9. 3%であった。	内容理解に関する問いの正答率が高く、基礎的な語彙が十分に定着していると考えられる。単語をインプットする常活動を今後も続けていきたい。記述に関しては、自分の考えを英語で書く練習を行い、自信を持って解答できるようにしていく必要がある。
読むこと	○すべての問題において、市の正答率上回っており、平均正答率は市を10. 3ポイント上回った。 ○対話文の情報を読み取り、その内容を理解する問題のうちの1つの正答率が92. 8%であった。 ○長文の読み取りにおいて、メールの内容を読み、その内容の理解を測る問題の正答率は、市の正答率を11～16ポイント上回っている。 ●メールの内容を読み、その概要を捉えて英文を完成させる問題の正答率は、市の平均を上回ったが39. 2%であった。	昨年度と比較して、文法の理解を問う問題(間接疑問文、現在完了、副詞的用法の不定詞、最上級)の正答率が高かった。文法の仕組みをしっかりと理解していることが、長文の内容を理解することに繋がっているため、引き続き指導していく。
書くこと	○すべての問題において、市の正答率上回っており、平均正答率は市を10. 0ポイント上回った。 ○単語の並べかえによる英作文の問題の平均正答率は80. 7%であり、市の平均を9. 3ポイント、上回っている。 ○場面に応じて書く英作文、学校の制服について自分の考えや意見を3文以上の英文で書く問題の平均正答率は、市の平均を10. 6ポイント上回っている。 ●対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書く問題の正答率は、市の平均を上回ったが、38. 1%であった。	「Wh」から始まる疑問文に対して、聞かれている内容、それに対する適切な答えを探し、正しい英語で答える問題の正答率が低かった。場面や状況を説明するのに適当な語やフレーズを選択して正しく使うことに慣れさせ、実際のコミュニケーションで正しく使えるよう指導していく必要がある。

宇都宮市立河内中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動の工夫	○一人1授業公開を実施し、「主体的・対話的で深い学び」について、授業実践を重ねる。また、教科や領域を超えて、相互に意見を交換して授業改善を図る。 ○話し合い活動では、自分の考えを伝えるだけでなく、他者の意見をよく聞くことにも重点を置き、自分の考えと対比させるなどして、自分の考えを深めさせる。 ○ICT機器を活用した言語活動の充実。	○「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」の項目では、肯定的回答の全学年平均は約75%で、昨年度とほぼ同じであるが、学年が上がるにつれて良くなり、3年生は87.9%であった。また、「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」の項目についても、3年生の肯定的な回答が約9割であった。 ○一人1授業公開の中で、多くの教員が互いの授業を参観し、意見交換をしながら授業に臨んでいた。次年度も公開授業などを通して、教師一人一人が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいきたい。
○言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成	○ICT機器を活用し、言語活動や学習、単元に合わせてグルーピングを行い、生徒の学びの推進を図る。 ○各教科や総合的な学習の時間に課題解決的な学習を進める。	○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の項目では、肯定的回答の全学年平均は85.2%であり、昨年度とほぼ同じであった。 ○パソコンを使って「まとめる」については全学年98%台、「自分の考えや調べたことを伝える」については平均約92%など、ICT機器の活用に関する項目は、良好な結果であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各教科の調査結果は、領域別、観点別とも宇都宮市の平均を上回っている。しかし、解答形式においては、どの教科も選択式の解答よりも記述式の解答の正答率が低い。このことを踏まえ、

- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践
- ・言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成、読書活動の推進
- ・情報活用能力の育成とICT機器の効果的な活用（ICT支援員との連携、校内研修）

などに重点をおいて、生徒一人一人の学力向上を目指して指導していきたい。